

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	吸実性カメムシ類	やや多	やや多
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロ イチモジヨトウ） オオタバコガ	並 やや多 並	並 やや多 並
いちご （本園）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ） アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 並 やや少 並	並 並 並 並 並
ブロッコリー	ヨトウムシ類 オオタバコガ	やや少 （前年比） 前年並	前年並 前年並
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	並 並	並 並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

## 大 豆

### 1. 吸実性カメムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（9筆）の結果、寄生株率は4.0%（4.0%）、株当たり虫数は0.1頭（0.1頭）であった。発生圃場率は33.3%（36.8%）であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は58.0%（22.0%）、株当たり虫数は0.8頭（0.4頭）であった。

ウ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 一部薬剤で感受性の低下が報告されているミナミナオカメムシが圃場でみられるので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

イ 収穫時期が近いので薬剤散布にあたっては農薬使用基準を遵守する。

## ばれいしょ

### 1. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.4%、発生圃場率7.4%)。

## 2. ジャガイモガ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.8%(0.4%)、発生圃場率は15.0%(11.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

### (3) 防除上注意すべき事項

土中のいもが産卵を受けないように、土寄せを十分に行う。

## 3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は6.8%(7.2%)、発生圃場率は47.4%(45.1%)であった。

## **いちご**

## 1. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.0%)。

## 2. 炭疽病(*G.cingulata*)

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率0.1%(0.1%)、発生圃場率3.7%(6.8%)であった。

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率2.3%(1.0%)、発生圃場率14.8%(12.7%)であった。

## 4. ハダニ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.5%(1.5%)、発生圃場率は14.8%(12.1%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量をていねいに散布する。

- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- ウ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては影響を与えるものがあるので、使用時期に注意する。

## 5. ハスモンヨトウ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は9.0%(11.1%)、発生圃場率は59.3%(78.3%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している(図1)。

ウ 向こう1カ月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

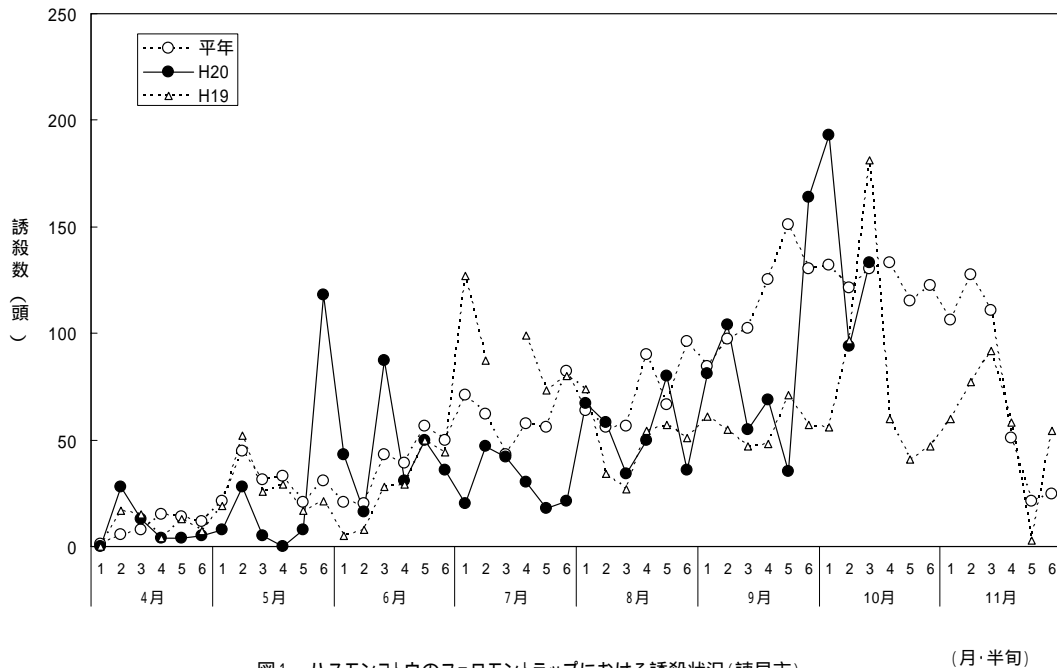


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)  
平年: H10 ~ H19の平均値(最大・小値除く)

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に防除を行う。

イ 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。

## ブロッコリー

### 1. ヨトウムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は7.3%(前年23.7%)、発生圃場率は33.3%(前年91.7%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している(図1)。

ウ 向こう1カ月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に防除を行う。

イ 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。

## 2. オオタバコガ

### (1) 予報内容

発生程度 前年並

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.7%(前年0.7%)、発生圃場率は16.7%(前年16.7%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より多く推移している(図2)。

ウ 向こう1カ月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

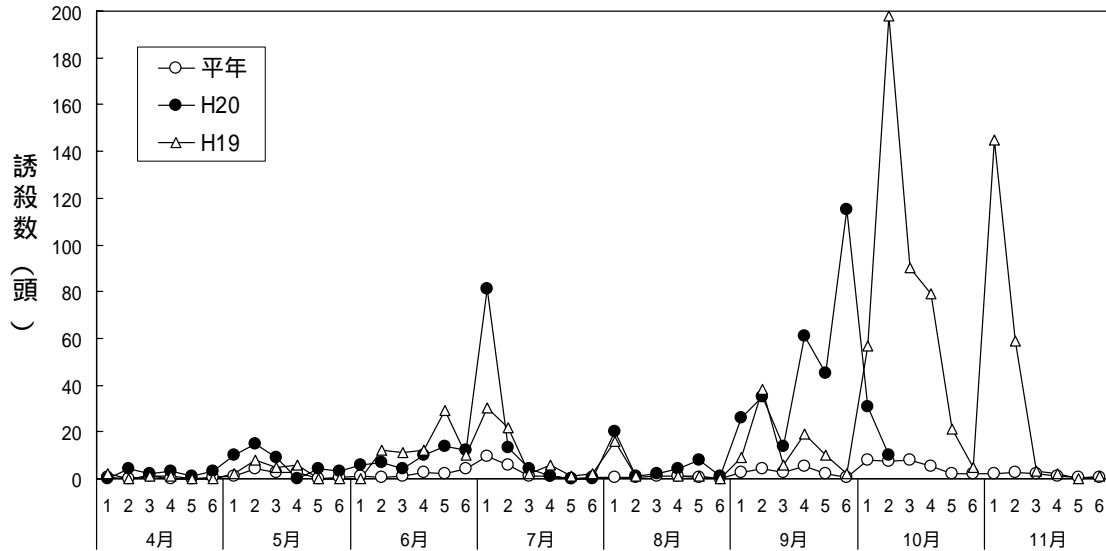


図2 フェロモントラップにおけるオオタバコガ誘殺状況(諫早市)  
H19データ:8月13日、14日、11月5日、6日データ欠測  
平年: H10~H19の平均値(最大・最小除く)

(月・半旬)

## かんきつ

### 1. 青かび病、緑かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は2.6%(2.8%)であった。

### 2. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は3.2%(6.8%)、発生圃場率は33.3%(39.4%)であった。

【参考】

気象 (平成20年10月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

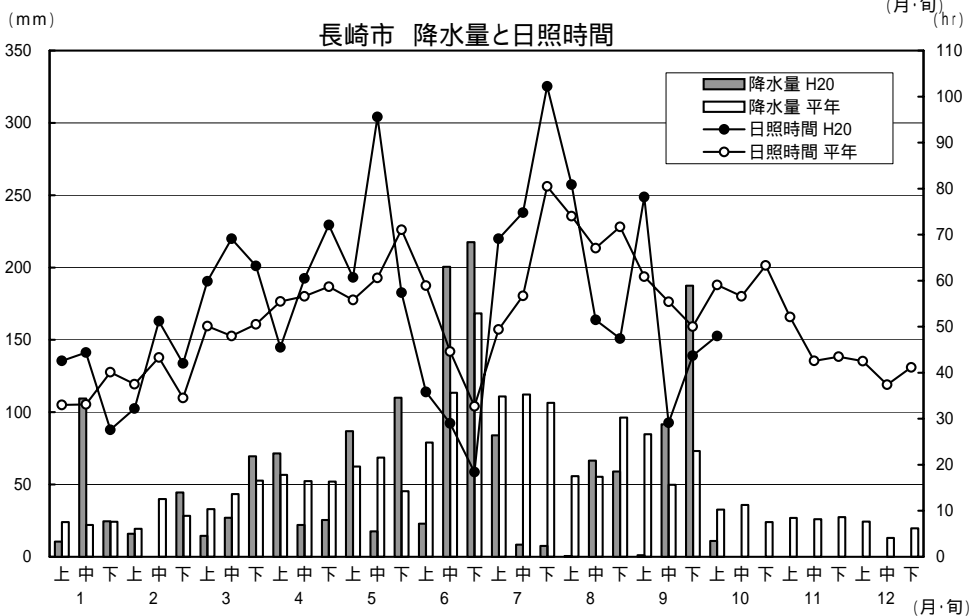
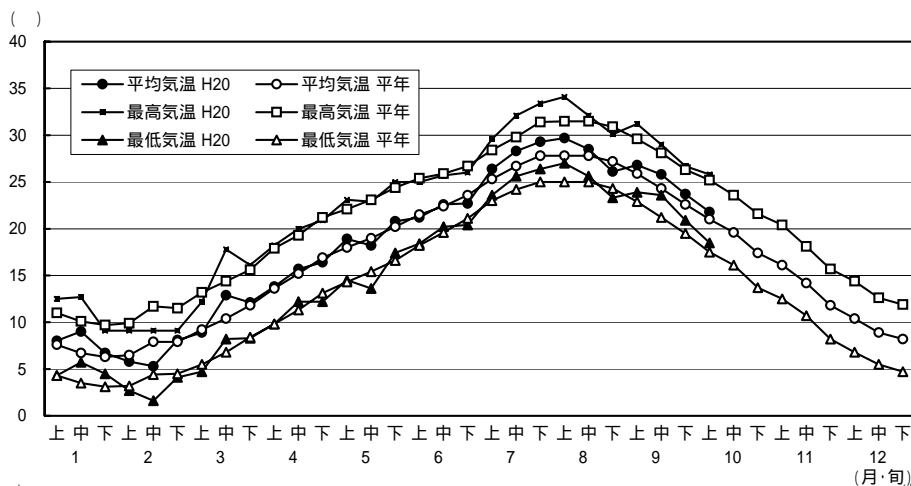
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

予報対象地域：九州北部地域

平成20年の気象経過 (長崎海洋气象台)

長崎市 気温



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、農薬使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027